

備前市事務事業評価シート

(平成20年度事業)

事業の概要			
事業開始年度 昭和46年度～			
総合計画	大項目	基本目標	01 安全で快適に暮らせるまちづくり
	中項目	基本施策	01 生活しやすいまちづくり
	小項目	施策	15 し尿処理
事務事業名			01 し尿処理施設維持管理事業
根拠法令・規程等			廃棄物の処理及び清掃に関する法律第6条の2、第8条
問 担当課(室)			環境課
合 職・氏名			衛生係長・森本和成
先 電話			64-1821

事業の実施	
対 象 (誰・何に対して)	市内のし尿・浄化槽の汚泥処理が必要な市民・市内事業者
目 的 (何のために)	し尿を効率的に処理することにより、生活環境の保全につなげる。
行 政 活 動 (どのような方法で)	許可業者によるし尿の収集運搬の指示。 適正かつ効率的にし尿の処理を行うために施設の維持管理を行う。
事業の意図する成果 (どのような状態にしたいのか)	許可業者が収集したし尿及び浄化槽汚泥を適正かつ効率的に処理することで、生活環境の保全を行う。

事業の実績					
活 動	実 施 項 目	単 位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
	し尿処理量	KI	6,217	5,707	5,506
	浄化槽汚泥処理量	KI	6,981	5,987	5,857
実 績	直 接 事 業 費	千円	40,867	36,817	30,103
	必 要 人 員 人 件 費	千円	4.70人	3.96人	3.39人
	事 業 費 計		78,217	67,841	56,241
財 源	国 支 出 金	千円			
	受 益 者 負 担				
	繰 入 金				
	市 債				
	そ の 他 ()				
	一 般 財 源		78,217	67,841	56,241
	受 益 者 負 担 比 率	%			

結果指標					
結果指標①	結果指標名	単 位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
	し尿処理量	KI	6,217	5,707	5,506
	対 前 年 比	%	-	91.8%	96.5%
	活 動 コ ス ト	円	36,844,604	33,108,311	27,251,865
	単 位 当 たり コ ス ト	円	5,926	5,801	4,949
結果指標②	結果指標名	単 位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
	浄化槽汚泥処理量	KI	6,981	5,987	5,857
	対 前 年 比	%	-	85.8%	97.8%
	活 動 コ ス ト	円	41,372,396	34,732,689	28,989,135
	単 位 当 たり コ ス ト	円	5,926	5,801	4,949

事業の成果					
成果指標名	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	到達目標値
	目標値 (A)	13,650	12,500	11,000	9,000
	実績値 (B)	13,198	11,694	11,363	到達目標年度
	達成率 (B/A)	96.7%	93.6%	103.3%	平成27年度
成果指標設定の考え方・式や説明					
衛生センターに搬入されたし尿及び浄化槽汚泥量					

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		妥当性評価<A~E>	
市 民 ニ ー ス	市の関与の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたさず <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input checked="" type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input type="checkbox"/> 類似した事業がある	妥当性評価<A~E> A 判定理由・課題認識 し尿および浄化槽汚泥の処理は、法律により市が実施するよう義務付けられており、備前市では備前地域及び日生地域で発生するし尿及び浄化槽汚泥の処理を行うため、し尿処理施設を維持管理している。 また下水道の普及によりし尿及び浄化槽汚泥の収集・処理量が減少しているため、「下水道の整備に伴う一般廃棄物処理業等の合理化に関する特別措置法」に基づきし尿処理業者の代替業務について検討する必要がある。
	市民ニーズ	<input type="checkbox"/> 説明 <input type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い	効率性評価<A~E> B 判定理由・課題認識 施設の運営にあたっては常にコストの削減に努めており、直接事業費は年々減少している。また人件費についても、1名欠員の状態で運営しているため、単位当りの処理コストは大幅に減少している。 ただし処理施設の老朽化が進んでおり、今後、施設の新設若しくは大規模な改造を必要とする。
有 効 性 の 評 価	効率性の評価	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	有効性評価<A~E> C 判定理由・課題認識 下水道の普及等によりし尿、浄化槽汚泥とともに収集・処理量は減少しており、今後も減少する見込みである。
	目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない	市民参画度 <input type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映させる仕組みがある <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプランづくりから市民参加を得る手段をとっている

平成21年度の状況					
目標値	結果指標量①	5,200	結果指標量②	5,500	成果指標量
					10,700
状 況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合
		○			
説 明	下水道の普及等によりし尿・浄化槽汚泥の収集・処理量はさらに減少すると予測されるが、法令に基づき今後も適正な処理を行う必要がある。 長年の課題である施設の老朽化に対し、今年度中に整備方針を決定する必要がある。				

総合評価	
下水道の普及等によりし尿・浄化槽汚泥の収集・処理量はさらに減少すると予測されるが、法令に基づき今後も適正な処理を行う必要がある。処理施設の運営にあたっては、コストの削減に努めており、単位当りの処理コストは年々減少している。 処理施設の老朽化は長年の課題であり、下水道や浄化槽の普及により処理対象物の量や性状が年々変化していることも踏まえ、設備や能力の見直しが必要である。合併前より単独処理施設の建替えや大規模改修について協議されており、合併後は下水道接続及び気赤赤し尿処理施設への処理委託といった選択肢も改めて検討しているが、未だ最終決定に至っていない。施設の耐用年数が超過しており早急な対応が必要であることから、H21年度中には方針を決定し、計画を前進させる必要がある。	評価区分<A~E> C

平成22年度以降の方向性・内容					
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合
			○		
説 明	現在、今後の方向性を検討中であるため未定				
	評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果	
改善がある場合	効率性	現有施設の老朽化への対応		適正なし尿処理の継続と処理効率の向上	